

スクールリーダーを育てる

山陰で唯一の教職大学院

Shimane University
Graduate School of Education
Professional School for Teacher Education

教職大学院



人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

島根大学大学院
教育学研究科
教育実践開発専攻



島根大学大学院教育学研究科
教育実践開発専攻(教職大学院)専攻長

加藤 寿朗

子どもを取り巻く環境が大きく変化の中で、学校教育への期待は益々大きくなっています。このような中、全国の小・中・高等学校の全ての学校において新しい学習指導要領に基づく教育課程が全面实施されました。前回の教育課程改訂における社会的背景のキーワードは「知識基盤社会」でした。今回はそれに加えて、「グローバル化と情報化」が指摘されています。グローバル化・情報化する社会、それらの進展に伴う変化の激しい社会への対応が重要な教育的課題の一つです。

変化の激しい社会、それ故、先を見通すことがますます困難になる社会で、たくましく生きていくことができる資質・能力が求められています。それは、子どもたちの15年後や20年後の将来において、あるいは生涯にわたって必要とされる力だと考えられます。学校は生涯学習の基盤づくりの場として位置づけられます。資質・能力の三つの柱として示された、生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等を、今の子どもたちにどのように身に付けさせていくかが実践的課題です。それは、「子どもの未来のための教育」だといえます。

このような教育の実現に向けて島根大学は、大学と地域が一体となり、山陰地域の教員のキャリアを生涯にわたって支援する連携協力組織「山陰教師教育コンソーシアム」を島根・鳥取両県教育委員会と協働で設立しています。そこでの議論をふまえて教職大学院では、変化の激しい社会に主体的かつ創造的に対応するスクールリーダーを育てるため、令和3(2021)年度に大学院教育をリニューアルしました。目指す教師像は次の3つです。

- 優れた教科指導力を持つ教師
- 組織の中で力を発揮する教師
- 子どもを深く理解し支える教師

このような教師になるために、授業デザイン、学校創造、子ども支援に関する科目を増やし、より深く学べるカリキュラムに刷新しました。また、大学院生のニーズに応じたオーダーメイドの学びができるよう授業科目の選択の幅を増やし、あなたの「なりたい」をより支援するシステムに変更しました。

子どもの未来のための教育に向けて、ここ島根大学教職大学院であなたの学びをはじめませんか。より良い教育を通して、より良い社会を創り出していくという高い志を持つみなさんを、心からお待ちしています。



島根県教育委員会教育長
野津 建二

「誰もが、誰かの、たからもの」—島根県には、どんなに時代が変わっても受け継いでいきたい「人のつながり、あたたかさ」があります。そのことは、教育も同じです。子どもたちの「人からの直接の学び」を大切に、島根への愛着と誇りを持ち、未来を切り拓く「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域が協働しています。

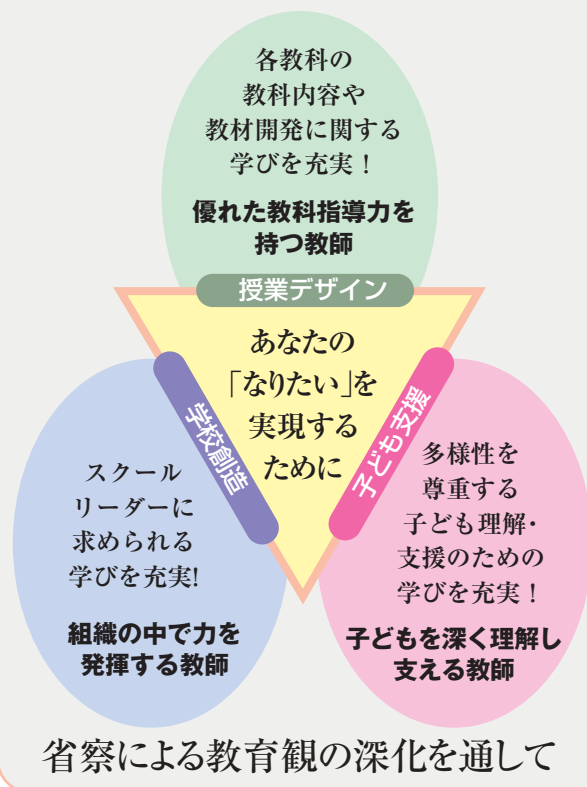
社会において教育の果たす役割がますます重要になる中、「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」で示すように、「学び続ける教育職員」の育成が欠かせません。中でも、学校組織をまとめ、後進を指導し、次代の教育を担うミドルリーダーの育成が重要な課題であると考えています。

教職大学院の「総合力の高いスクールリーダー」を養成する教職課程は、まさにこの求めに合致するものであり、ここで学んだ教員が、島根県の教育を牽引していくリーダーとして活躍してくれるものと、大いに期待しています。

「学校創造」、「授業デザイン」、「子ども支援」をより深く学べるカリキュラム

学び続ける教師をめざして

教職大学院の3つのタマゴ



鳥取県教育委員会教育長
足羽 英樹

鳥取県では「自立して心豊かに生きる未来を創造する鳥取県の人づくり」を基本理念として子どもたちの未来のために様々な教育施策に取り組んでいます。

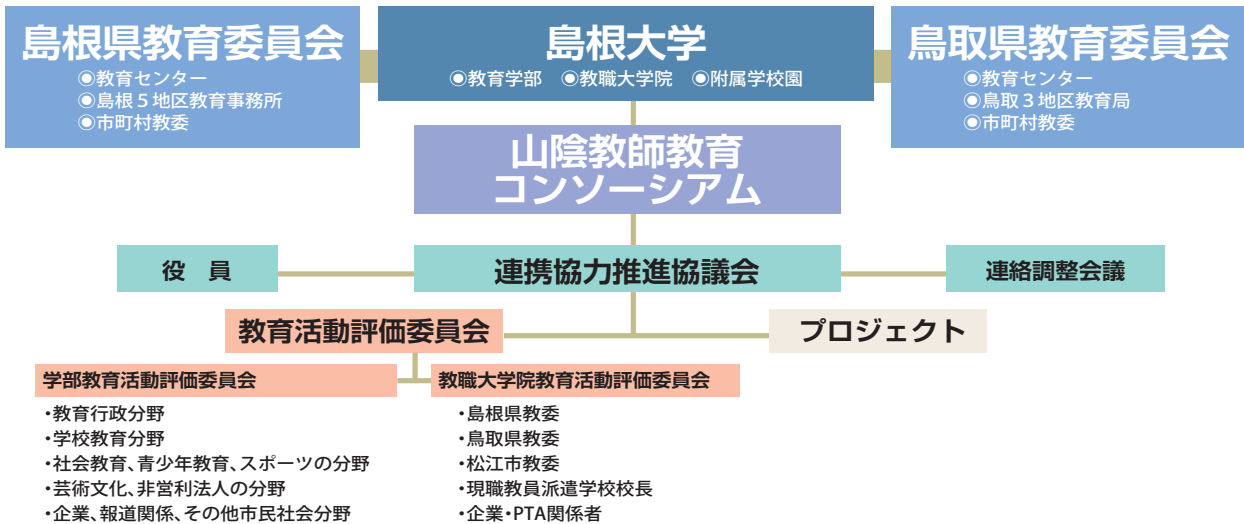
少子高齢化とともにグローバル化の進展や急激な技術革新により、夢や目標、学ぶ意欲を持って生きる子どもたちを育成するためには、高度な専門的知識や優れた資質・能力、そして何より熱意のある教員の育成が重要です。島根大学教職大学院で学んだ教員が、今後スクールリーダーとして、本県の教育の発展・充実に貢献することを期待しています。

「地域拠点校」と「サテライト」

「地域拠点校」及び「附属学園サテライト」の意義とはたらき

- 山陰の都市部や島しょ部・中山間地域に「地域拠点校」を設け、教職大学院教員（実務家教員・研究者教員）が当該校の学校教育研究に入り込みながら地域課題と密着した研修を実施することによって、理論と実践の往還を通した現職教員の力量形成を図ります。さらに、継続的な現職教員指導を通して、拠点校を核とする地域の教育力向上を目指します。
- 現職教員学生は、大学院1年目は大学での講義・演習を中心とする学修を行います。2年目は地域拠点校に勤務しながら、勤務校での実習を主として行います。
- 学部新卒学生は、原則として、大学院2年間を通じて公立学校において継続的にインターン実習を行います。
- 島根大学教育学部附属義務教育学校に併設された教育学部附属山陰教員研修センター（SaTeLa）に、教職大学院附属学園サテライトが設置され、附属学園で行われる教職大学院の授業や実習・イベントなどに活用しています。

- 地域拠点校にとって：** 現職教員学生の研究テーマの追求を通して教職大学院教員が継続的に学校と関わり、大学における研究上の知と学校が蓄積している経験知の融合を図りながら学校現場が今、抱える課題の解決を進めていきます。
- 地域にとって：** 地域の教育課題をふまえた地域拠点校の研究を現職教員学生や拠点校教員と教職大学院教員が協働しながら課題解決し、その成果を積極的に地域に還元します。また、地域拠点校を核としながら継続的に教職大学院が地域に関わり、教育課題の解決をサポートします。
- 教職大学院附属学園サテライトとは：** 「子どもと共に学ぶ研修センター」として附属学園の保育や授業を見て学ぶ山陰教育研修センター（SaTeLa）には、教職大学院の附属学園サテライトがあります。附属学園サテライトでも、附属学園との協働による授業づくりや研究協議が行われる等、実践研究の場として活用されています。



島根大学 大学院 教育学研究科(教職大学院)

専任教員（研究者教員）		
大谷みどり	特任教授	英語学習支援、異文化コミュニケーション
大野 公寛	講師	教育経営、社会教育、生涯教育、学校と地域の連携・協働
加藤 寿朗	教授	社会科教育、生活科教育、総合的な学習
川路 澄人	教授	造形教育（幼児の造形・図画工作・美術科）生活科教育・総合学習・教師教育
川俣 理恵	准教授	生徒指導・教育相談、教育心理学、学級経営、スクールカウンセリング
久保 研二	准教授	教師教育学、保健体育科教育学、リフレクション
橋爪 一治	教授	ICT教育、技術科教育、子どもの発達
原 広治	教授	特別支援教育、就学相談、地域療育活動、子育て・子育て支援
松尾 奈美	講師	教育方法学、授業研究、子ども理解、インクルーシブ教育、探究的な学び
専任教員（実務家教員）		
齋藤 英明	特任教授	学校・学級経営、特別支援教育
船田 次郎	教授	学校・学級経営、教科教育
藤原 建	特任教授	生徒指導、教育相談、学校・学級経営
三島 賢隆	特任教授	特別支援教育、学校・学級経営、教育行政
宮崎 紀雅	准教授	特別支援教育、学級経営、教科教育
安野 洋	准教授	学級経営、教科教育、青少年育成
特別専任教員		
小坂 達也	准教授	音楽科教育
塩津 英樹	准教授	教育哲学
下村 岳人	講師	算数・数学科教育
富安 慎吾	准教授	国語科教育
深見 俊崇	教授	教師教育、教育工学、教育方法学、教育課程・カリキュラム論
藤井 浩基	教授	音楽科教育、音楽学
松本 一郎	教授	理科教育、SDGs/ESD教育、地球・宇宙教育、地球科学
御園 真史	教授	数学教育学、教育工学



山陰の地域ニーズや現代的教育課題に対応した 授業内容と指導方法

■地域の学校が今、取り組まなければならない課題に対して、教育実践を多角的に分析し、具体的な方策を構築し、組織力開発の中核となるスクールリーダーを養成します。また、ICTを活用した遠隔研修や自己省察力を高めるための『教師力ナビゲーションシステム』を活用した新しい教育方法を取り入れます。

■共通科目

地域の実態や新しい教育課題を踏まえた科目「教科指導力向上のための授業研究」「子ども理解・支援の理論と方法」「多様化時代の学級経営」等を開講します。また、地域の実態や現代的な教育課題に対応した新しい教育理論や課題解決に向けての実践的アプローチの方法を学びます。(必修:20単位)

■選択科目

個々の学修ニーズに応じて3つの科目群(学校創造、授業デザイン、子ども支援)から選択して学修します。

■課題研究科目

学校現場が今、抱える教育課題の解決を目指した研究テーマを設定し、講義で学んだ教育理論と実習による実践を関連付けながら研究を進め、その成果を報告書にまとめます。

■実習科目

学部新卒学生は公立学校において教育実践研究と長期インターンシップによる課題発見とその追求を、現職教員学生は勤務校を中心に地域・学校の教育課題の解決を目指した教育実践研究を2年間で行います。

教職大学院で学ぶ内容(学部での学びの深化)

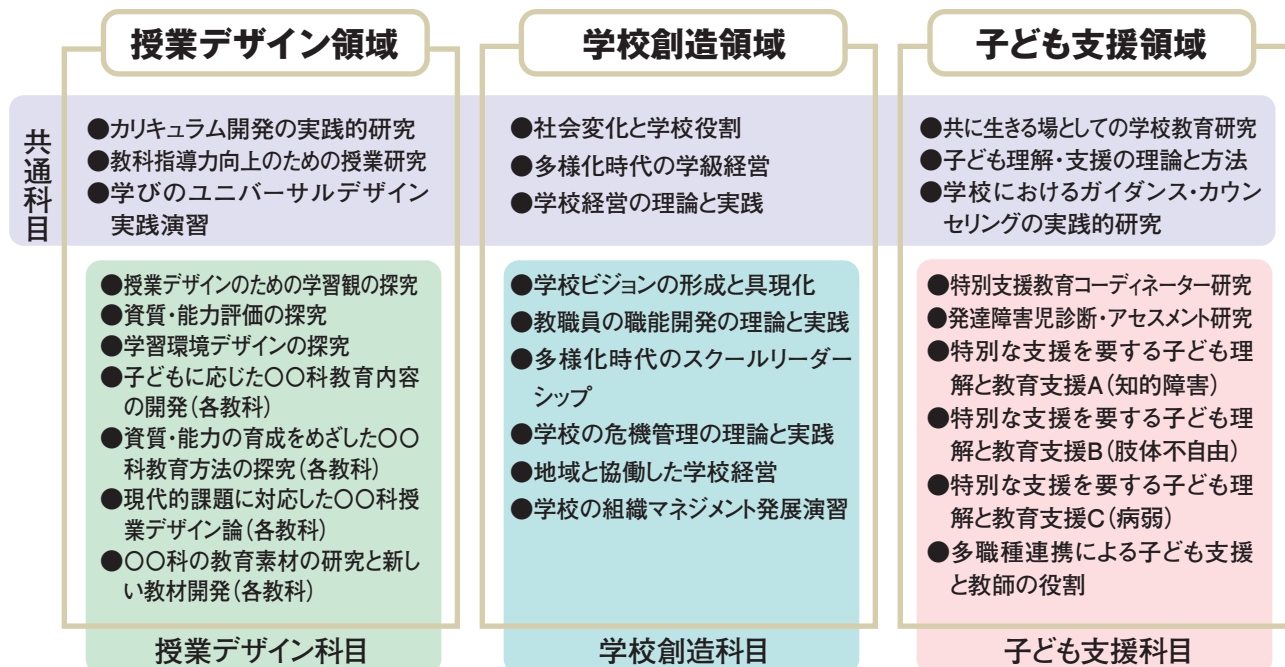
■3つの領域ごとに共通・選択科目を設定し、現代的教育課題に対応できる教師の育成をめざしています。

たとえば、『カリキュラム開発の実践的研究』の授業では、新学習指導要領で重要とされる「社会に開かれた教育課程」について、教師はもとより家庭や地域の人々が、児童生徒の「学習の在り方」を展望していく取組を考察しながら、学校と家庭や地域が相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます。

また『資質・能力の育成をめざした〇〇科教育方法の探究』の授業では、各教科等に応じた個別的指導のもと、教科教育に関する知識・技能を活用した効果的な指導の開発と実践を行っています。



多彩な授業のラインナップ



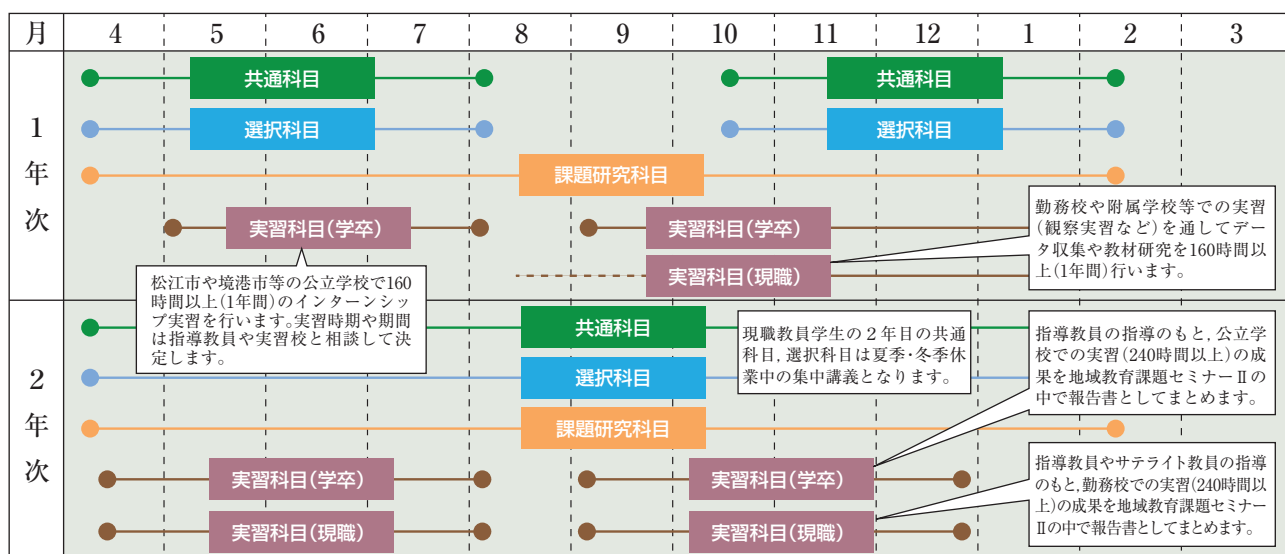
基盤科目: ●エビデンスに基づく教育改善, 教職の理論と実際

課題研究科目: ●地域教育課題セミナーI・II(授業デザイン・学校創造・子ども支援)

実習科目: ●地域教育課題探究フィールドリサーチI・II(授業デザイン・学校創造・子ども支援)(初等・中等)

●地域教育課題探究プロジェクトI・II(授業デザイン・学校創造・子ども支援)(初等・中等)

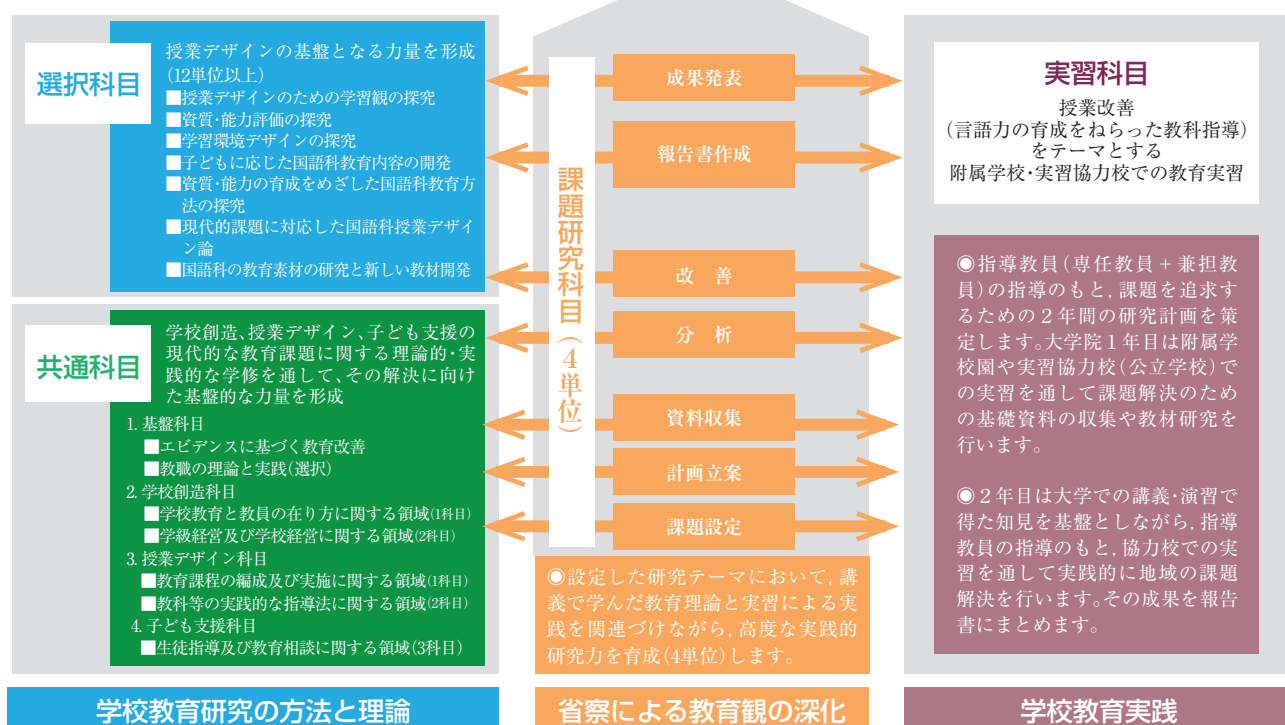
教育実践開発専攻(教職大学院)の2年間



「理論と実践の往還」を目指した学修イメージ

例)
学部新卒学生Bさんの研究テーマ
「協働的な学習による言語力の育成」

高度な専門的知識に基づく 教育実践力の修得





島根大学教職大学院で、教育の「今」と「未来」を学び合う

教職大学院で学ぶ内容(学部での学びの深化)

- 3つの領域ごとに共通・選択科目を設定し、現代的教育課題に対応した「社会に開かれた教育課程」について、教師はもとより学校と相互に連携・協働していくための企画力を身につけていきます。
- 「これからの学校」や「これからの学び」を意識することで、従来のカリキュラムには不足しがちだった内容に焦点をあて、多様な活動を通して学部教育(学部専攻)で身につけた教科専門の力を、さらに引き続き伸ばしていけるよう設計されています。
- 従来とは異なる視点からの事例研究や模擬授業、ケースメソッドなどの手法をととして、また在学する2年間貸与されるタブレットや様々なICT機器を活用して、山陰地域の教育課題に迫っていきます。

時間割からみる、大学院生の1年間

(前期)	月	火	水	木	金	(後期)	月	火	水	木	金	
1・2	実 習 日				共通科目	1・2	実 習 日	実 習 予 備 日			共通科目	
3・4		共通科目	共通科目	共通科目		3・4			共通科目	学校創造 科目	学校創造 科目	
5・6		共通科目		共通科目	共通科目	5・6			共通科目	授業デザイン 科目	学校創造 科目	
7・8				子ども支援 科目	授業デザイン 科目	7・8				学校創造 科目	授業デザイン 科目	
9・10				子ども支援 科目		9・10						
集中・ 不定期	1年	共通科目	授業デザイン科目	授業デザイン科目	課題研究科目	実習科目	1年	共通科目	学校創造科目	授業デザイン科目	授業デザイン科目	子ども支援科目
	2年	課題研究科目	実習科目				子ども支援科目	課題研究科目	実習科目			

※太枠は必修科目

院生室での暮らしと現場感覚の醸成 (現職教員学生と共に学ぶ効果)

学校をよく知る現職教員学生と、これから学校に出ていく学部新卒学生が共に過ごすことで学びを深めあう、大きな効果が生まれています。

現場の状況に近い議論ができ、学部も、教科も、経験も、地域も異なる多様な院生達がそれぞれの専門性を持つ「チームとしての教職大学院」で活動することで、お互いの学びがより深まります。



長期間の実習によって培われる実践力 (学部での教育実習との違い)

大学院生の研究テーマにマッチする実習協力校(公立学校)を決定し、めまぐるしく変化する学校現場で、2年間の実践研究(実習)を経験します。

より「リアル」に、職員室の「一員」として、実習協力校でインターンシップのように体験しつつ過ごします。

実践研究(実習)はアクション・リサーチであり、現場ではどのように課題解決しているかを体験したり、授業が「できる」段階から、子ども達を動かす授業が「創れる」段階への成長をめざしたりします。

学級経営、生徒指導の実際や、危機管理や保護者との連携、さらに教育相談など、短期間の教育実習では触れることが難しかった、学校の現実体験に迫り、自己の成長を図ります。

島根・鳥取両県教育センター等との協働で、「生」の教師と語り合う豊かな時間・空間や、実際に現場の教員たちが受講している研修等への聴講ができる制度などもあり、計画的に参加できます。

大学院生(修了生含む)の声



鳥根県教員採用試験で中学校に合格しました。学部4年次の受験では不合格となり、それを機に自らの学び足りなさを痛感して大学院への進学を決めました。学部4年間は教科の専門を学んできましたが、学校教育全般に関する学びを十分にできなかったという思いがありました。

講師として学校現場にいれば、日々子どもたちと共に貴重な経験を積めるであろうという思いもありましたが、大学院で鳥根県が抱える現代的な教育課題に対する授業内容や方法、学校経営、教育相談、生徒指導などについて様々な文献をもとに熟考し、教育を広い視野で捉える時間をつくりたいと考えました。

講義は現職教員の大学院生の方々と共に、基本的にディスカッション形式で行います。初めは話し合いに上手く参加できず、もどかしい思いをしました。しかし、学校教育に関わる様々なテーマについて自分なりに考えを語ることや、他の学生の多様な経験知に基づいた意見を聞くことは、教師を志す上で非常に貴重な経験であるし、同時に教員採用試験対策につながっているように思います。

実習は、松江市内の高等学校で様々な教科の授業観察や授業実践、学級経営への関わり等の貴重な体験をさせていたれています。このように、教職大学院では理論と実践の往還を通して、充実した学びが保障されています。学校現場にでる前に、まだ学び足りないという思いのある方は、ぜひ進学を検討してみてください。



現職教員の立場から入学した教職大学院での2年間を振り返ると、大きく2つの良さがありました。

1つ目は、今までの実践を俯瞰的に見つめ直すことができたことです。学校現場は多忙です。私自身、目の前の子どもたちのために常に走り続けていました。大学院では、一旦立ち止まって自分の今までの実践を振り返ることができます。落ち着いて振り返る中で、何が課題なのか、何が必要なのかといったことを、整理することができました。

2つ目は、自分が求める学びが得られることです。教職大学院には、様々な分野の専門の先生がおられ、ニーズに合った学びが得られます。つまり、オーダーメイド型の授業を受けることができるのです。自分が深めたいと思うことを、とことん突き詰めることができました。

教職大学院で学ぶにあたり、高度な知識や高い授業力をもっていないといけないわけではありません。「楽しく分かる授業がしたい。日々の授業の質を高めたい。そのために学びたいことがある。」といった気持ちがあれば、十分に満足できる環境だと思います。2年間で多くの学びを得ることができたとともに、様々な先生方と繋がることができました。教職大学院で学んだことが、今の仕事の支えとなっています。



多忙な教員生活の中で、勉強しながら採用試験合格を目指すことに自信がなく不安を抱いていた私は、講師として働くか迷いながらも、現場よりも勉強時間が確保でき、なおかつ教職に対して学びを深めることのできる教職大学院へ進学することを選択しました。

大学院では、日々の授業が全て教員採用試験の対策に直結していると言っても過言ではありません。最新の教育現場の理論等を学びつつ、協力校で実践を行うことが出来ます。教職大学院の一番の強みは、現職教員院生の先生方と一緒に勉強できることだと思います。理論的な知識だけではなく、先生方から実際の現場の状況聞き、イメージしながら学べることは、「活きる学び」に繋がっていると実感しています。

実際に、私が採用試験の面接で聞かれた内容は教職大学院の授業で学んだことや考えたことばかりでした。また、教員採用試験の対策に関しては、現職の先生方に模擬授業を手伝っていただいたり、教育委員会や管理職で働いておられた先生方に面接練習をしていただいたり、手厚くサポートしていただきました。そのおかげで、本年度、教員採用試験において合格することができました。

教職大学院には、学生を応援してくれる環境が整っていると思います。教職大学院に進学することは一見すると遠回りに思えるかもしれませんが、大学院に進学して良かったと自信を持って言えます。それはこの半年間で得てきた学びが自分のものになり、早く現場で活用したいという思いが膨らんでいるからです。悩んだ末の大学院進学でしたが、勇気をもって進学を決めて良かったと思っています。



鳥取県から現職派遣院生として大学院にお世話になっています。教員生活も20年近くになりました。この20年で学校を取り巻く環境は大きく変わるとともに学校に求められるものも格段に増えてきました。そして授業も「主体的・対話的で深い学び」という視点のもと大きく変わろうとしています。しかし多忙な教員生活の中で、次々と学校に求められてくる内容に応じて勉強していくのは難しいことでした。そこで今後求められる授業とはどういうものか研究しようと思い、教職大学院へ進学しました。

大学院では授業改善に関することだけでなく、生徒指導、教育相談、特別支援教育、マネジメントに関することも学ぶことができ、幅広い視野で学校というものを考える機会を得ました。授業では理論を学ぶのはもちろんのこと、同じ院生と活発に協議や議論をすることもあります。他校種、他教科の現職教員の方々とストレートマスターの院生と議論することは、中学校だけの世界で教員として働いてきた私にとって新鮮で刺激があり、勉強になります。今後はこの学びを実践へ活かしていきたいと考えています。



島根大学教職大学院は、山陰両県の教師教育を担うための教職大学院として設置されています

島根大学教職大学院は、島根・鳥取両県の教師のキャリアアップに貢献するための大学院として文部科学省に設置認可されています。

山陰両県の教師の職能発達に資することが目的の1つであるため、島根県・鳥取県から毎年数名ずつの現職の先生方が派遣されています。

■教職大学院Q&A

現は主として現職教員、**ス**は主としてストレートマスター（学部を卒業してすぐ入学する学生等）向けの質問です。

教職大学院はこれまでの大学院と何が違うのですか？ **現ス**

地域の学校教育を牽引する専門家（スクールリーダー）を養成する大学院で、授与される学位は「教職修士（専門職）」です。山陰地域の教育課題を深く追求し、広い視野から組織的に解決できる力を養成します。

学校での教科に関する授業がありますか？ **現ス**

教職大学院では、教科指導力の向上のため、教科の内容を深く学び教材づくりや授業のデザインを考える授業があります。また、研究テーマによっては各教科の教科教育の大学教員が指導教員の一人になりますので、ゼミ形式で教科の専門性を伸ばすことも可能です。

学費はおおよそ年間いくらぐらい必要になりますか？ **現ス**

入学科は282,000円、授業料は535,800円（年額）（いずれも令和5年度）です。入学科・授業料の免除制度や奨学金制度もあります。詳しくは、島根大学教育・学生支援部学生支援課にお尋ねください。

実習は、どのような学校で実施するのでしょうか？ **現ス**

ストレートマスターの学生の実習は、原則として松江市（島根）及び境港市（鳥取）の公立小中学校で行います。希望する校種によっては、高校や特別支援学校等での活動も可能です。現職教員の学生の実習は、勤務校での実習が中心です。

実習校ではどんなことをするのですか？ **ス**

研究テーマに関するデータ収集（観察や調査）と授業実践が中心です。その他、担当学級の学級経営の補助や、学校行事の運営補助、中学校では部活動指導の補助など、授業以外にも学校の様々な活動を経験します。

就学途中で教員採用試験に合格した場合、採用はどうなりますか？ **ス**

入学前や1年生のときに合格した場合、たとえば、島根県や鳥取県等では、大学院修了まで合格を維持したまま、採用を待って頂ける制度があります。

教員採用試験の勉強をする時間はありますか？ **ス**

1年目の大学での講義は12～13コマです。それ以外の時間に教員採用試験の対策をして、1年目に合格する大学院生もいます。2年目は、学校での実習と課題研究以外は教員採用試験の対策に取り組んでいます。

アルバイトができる時間的な余裕はありますか？ **ス**

大学での授業や実習以外に、アルバイトや自主的な活動に取り組んでいる大学院生もいます。大学院での学修と、そうした活動の両立は十分可能です。

教育学部以外の出身なので、不安があるのですが？ **ス**

大学での授業は少人数なので、大学院生のみなさんそれぞれに配慮した授業を行っています。その他、大学院生同士で、それぞれの専門性や得意分野を生かして学びあい、支えあっています。実際、教育学部以外から進学してきた院生も多く在籍しています。

現職教員でも進学できますか？ **現**

島根県や鳥取県の現職教員は、大学院派遣研修制度を利用して進学することができます。勤務校の学校長並びに教育委員会から大学院派遣研修としての推薦を受けた現職教員対象の「現職派遣教員入試」という入試区分があります。

現職教員はどのような学生生活を送るのですか？ **現**

1年目は、大学での講義が中心です。週に1回程度、勤務校を中心とした実習先での実習を行います。2年目は、原則として勤務校にしながら研究テーマに関する実習を行います。

■令和6年度入試（詳細は島根大学入試情報でご確認ください。）

日	期	I期	出願期間	令和5年10月6日（金）～令和5年10月13日（金）
			試験実施日	令和5年10月28日（土）
			合格発表	令和5年11月6日（月）
		II期	出願期間	令和6年1月15日（月）～令和6年1月19日（金）
			試験実施日	令和6年2月9日（金）
			合格発表	令和6年2月16日（金）
		III期	出願期間	令和6年2月19日（月）～令和6年2月26日（月）
			試験実施日	令和6年3月14日（木）
			合格発表	令和6年3月22日（金）

募集人員 20名
入学検定料 30,000円

島根大学入試情報



FACEBOOK



大学院の活動



Instagram



Twitter



島根大学大学院 教育学研究科 教育実践開発専攻（教職大学院）

修了要件	修業年限（2年間を標準とする※1）、修了単位（46単位）
担当教員	専任15名、特別専任8名、兼任51名、兼任3名
学位	教職修士（専門職） 実習等を含めた2年間の本課程（専門職学位課程）の修了要件を満たすことによって取得できます。 従来の修士課程とは異なり修士論文は課しません。
免許	小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状、高等学校教諭専修免許状、 幼稚園教諭専修免許状、特別支援学校教諭専修免許状 小・中・高・幼の専修免許は「教職に関する科目」を24単位、特支の免許は「特別支援教育に関する科目」を24単位取得することによって取得できます。 ただし、当該免許状の一種免許状を有している必要があります。

※1 幼稚園教諭免許状または中学校教諭免許状（いずれも一種であること）を有する者が小学校教諭一種免許状を取得できる「長期在学（3年）プログラム」を開設しています。

お問い合わせ



人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

島根大学学務課教育学部担当 Tel 0852-32-6035

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
E-mail sad-nyushi@office.shimane-u.ac.jp